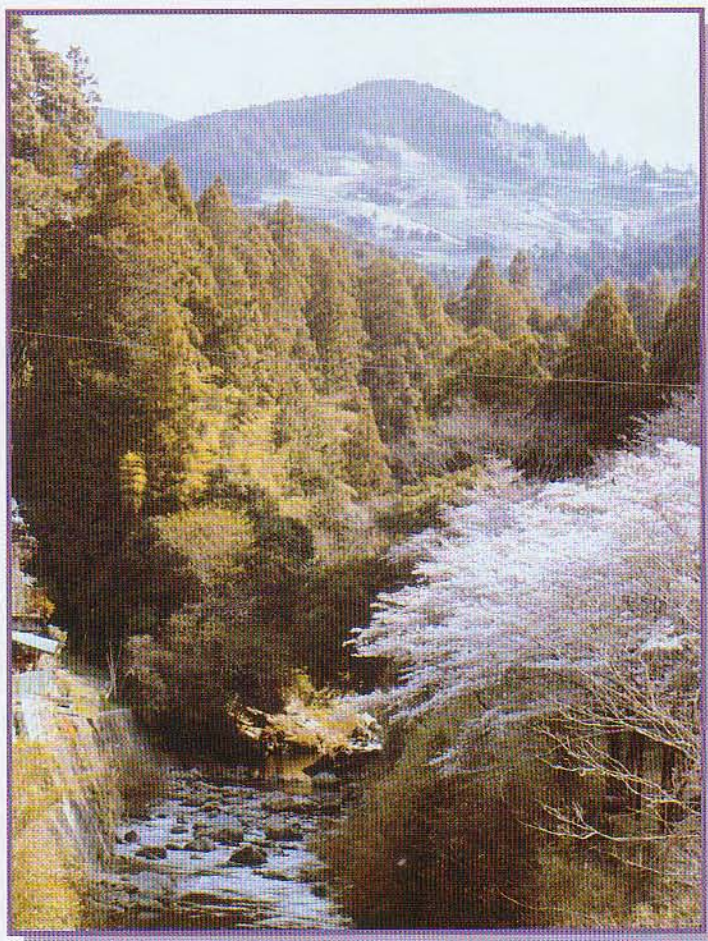


会 報

平成20年5月15日

てんりゅう



春の山里を望む

冬色だった天竜杉林が春の色に移る頃、各地で桜花が見られます。主要地方道天竜東栄線を一步外れると、白く光る水の流れや道端のふきのとうに春を感じ、遠くには春の山里が映ります。

北山橋から白野地区をのぞむ（撮影は杉保美恵子さん）
（浜松市天竜区東藤平地内）

会報てんりゅう 第91号

(社)天竜建設業協会 浜松市天竜区二俣町鹿島491-5 ☎(053)926-1562
編集・発行 広報委員会 題字 秋山錠介 FAX (053)925-6468
電子メールアドレス tenryu@aqua.ocn.ne.jp
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>

抱負・方針を尋ねる

長谷川智彦新会長

天竜建設業協会の4代目会長に就任した長谷川智彦新会長に、これからの抱負、方針等をお尋ねしました。

長谷川会長は、昭和41年6月から40余年、建設業界をまとめてきた秋山錠介前会長の退任にともない、本年4月1日に会長に就任しました。天龍土建工業株式会社の代表取締役で、平成14年4月から協会監事、同16年4月から協会理事、同18年4月から副会長を歴任されています。

○建設業協会にとって大変厳しい時期に会長に就任されましたがこれまでの印象は如何ですか。

◎北遠地域に止まらず県建設業界を強みにリードして多くの実績を刻んだ、秋山前会長の後任という重責でお話を頂いたときはお断りしましたが、多くの会員皆様の声を聞き決心しました。

公共工事の減少が続く中で道路

特定財源の暫定税率が廃止され、新規の道路事業を中心に工事の見直しや中止が懸念され益々厳しい状況です。全会員が結束してこの難局を乗り切っていくことが必要で、実績ある天竜建設業協会ですからそれができると信じています。

○県協会も「県建協新生元年の実現に向けて」を作成・実行し、新しい姿を模索していますが、協会のこれからは。

◎合併で大きな浜松市になりましたが、北遠地域の特色を発揮して存在感を表したい、例えば災害時に地域から安心して頼られる協会なことです。

身近な問題では会員のニーズも変化していることから、会員が求める協会の姿も適確に把握して活動に取入れていきたい。新しい公益法人制度が本年12月に施行され将来の移行組織の選択が求められ

ますが、当協会にとってまた会員にとって一番ふさわしい道を探さなければいけないと思います。これには総務委員会を中心に役員全員で取組んでいきます。

○仕事以外でも消防団や交通安全協会等で活動されていますが、日ごろのモットーや心構えは。

◎大学卒業後に勤務した建設コンサルタント会社の5年間で感じた「信用と信頼が一番大切で、日ごろの仕事を通じて社会に貢献していきたい。」との思いを持って仕事に取組むことで、今でもその気持ちです。

○ゴルフの腕は最近どうですか。

◎上手ではありませんが、お付合いのゴルフです？。でも最近の休日は子供の野球のつきあいで、一緒にグラウンドに立っている時間が

多くなりました。そんな日のビールの味は格別ですね。

短時間でしたが協会のこれからや仕事の話しでは、厳しい眼差しから新しい職責に取組む真剣な姿勢を感じましたが、趣味や子供さんの話しでは、柔和で穏やかな人柄が溢れていました。

(広報委員長・清水 充)



意気ごみを語る長谷川新会長



浜松市天竜区役所

区長 石塚 猛裕

本年4月から天竜区長に就任いたしました。どうぞよろしく願います。

豊かな自然に恵まれた天竜区の面積は944km²と広大で、浜松市域全体の62・5%を占め、その91・4%が森林です。中央部には、天竜川が悠然と流れ、その流域には金原明善翁をはじめ、多くの先人が心血を注いで育てたスギ・ヒノキの人工林が豊かな緑をたたえ、脈々と受け継がれてきた伝統芸能や素朴な民話が息づいています。

浜松市は、政令指定都市に移行して2年目を迎えました。政令指定都市づくりの基本となる第一次浜松市総合計画の中で、天竜区は「森林（もり）と水 生命（いのち）はぐくむ 天竜区」を区計画の将来像としています。この目標に向かって、天竜区ならではの豊かな自然環境や山村文化・農林業・観光などの資源を区の強みとして地域の活性化につなげ、併せて国道や林道などのインフラ整備、防災対策の推進、保健・医療・福祉・教育の充実などに、地域の皆さんのご意見をお聴きしながら、引き続き取り組んでいきます。

また、地球温暖化が叫ばれる中、環境にやさしい森林は天竜区が誇る大切な財産ですので、自然との共生・環境の保全も天竜区活性化のキーワードとして、一体感のあるまちづくりに努めてまいります。



浜松市天竜土木整備事務所

所長 松本 常志

4月1日の人事異動により天竜土木整備事務所長に就任いたしました松本でございます。

広大な面積を有する管内の国道・県道・市道の道路延長も長く、維持管理が広範囲であります。

また、天竜区は急峻な地形であるため、道路は台風や大雨など非常時に土石の崩落や路肩決壊などで大変脆弱でありますので、災害時において早期に対応し市民の通行の確保に努めてまいります。

また、落石による事故も多発している状況でありますので、落石防護柵など防災工事を行い市民が安全で安心して通行できるよう努めてまいります。

また、老朽化している橋梁や舗装についても、橋梁調査・補修や修繕工事を行い快適に通行できるように努めてまいります。

管内の国道・県道・市道の整備状況であります。交通渋滞箇所や狭隘箇所があり、今後も整備が必要であります。

特に、国道152号の浜北・天竜間のバイパスにつきましては、飛竜大橋より浜北側は施行中でありますが、引き続き飛竜大橋から船明間の整備が急がれるわけであります。そのほか、国道362号・国道473号や県道・市道の見通しの悪い区間や狭隘区間の整備に努めてまいります。

建設業協会の皆さんにおかれましては、大変厳しい時代ではありますが、道路整備につきましてお力添えをお願いいたします。



静岡県浜松土木事務所

天竜支局長 田原 由久

この4月の定期人事異動により浜松土木事務所天竜支局長に赴任しました。微力ながら北遠地域の社会資本整備に精一杯努めてまいりたいと思っておりますので、天竜建設業協会の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

県内の社会資本整備の状況は、着実に整備されてきたものの、最新の県政世論調査では、県に望む施策で「地震や風水害などの防災対策の推進」が第1位になるなど、依然として社会資本は量的にも、質的にも十分とは言えない状況にあります。当管内は山また山の山間地域であり、支局の役割は、特に環境に配慮しながら防災対策を着実に実施しなければならないと考えています。地域の魅力や活力は、「安心・安全」に支えられており「安心・安全」を確保するため、さまざまな自然災害・危険から地域を守ってまいりたいと思います。そのためには、施設整備に併せて土砂災害防止法に基づく区域指定等のソフト施策も行い、森林局とも連携し、効率を高めたければなりません。また、事業の実施にあたっては、計画段階から維持管理、利活用に至るまで、地域住民の皆様等との幅広い協働の推進により、公共事業に対する地域住民の理解の促進を図ることも、効果的かつ効率的な事業を推進し、県民のくらし満足度の向上を目指してまいります。

協会の皆様は、このような地域の特性、事情を知り尽くした方々であり、特に災害時では協会員皆様の協力が無ければ地域の生活、経済活動は維持できないことであり、協会の活躍をお願いするものであります。また、昨今の業界を取巻く状況は大変厳しいものがありますが、社会状況を的確に捉え、環境・福祉といった面も重要な施策となっており、協会員の皆様には、これらを念頭に研鑽し、この地域に貢献されることを期待しております。

私の安全パトロール日誌

— 墜落・転落事故の防止を —

主任安全指導者 労災防止指導員 乗松 敬貢



日頃、現場の安全管理には、格別な配慮をしてもらい、大変有難く思います。

私が安全指導員になり、早20年となりました。今回パトロールをして感じた事を簡単に書きます。

今までに事故を起こした事業所は、ほぼ九割近く改善されて事後の事故防止に最善をつくしています。しかし、約一割近くの事業所は改善が行われず、又事故を起こすケースがあります。

これは、事業主が安全に対する意識が低いと思いますので、今後安全意識の高揚をお願いします。確かに、



温暖化対策は 一人一人の力で

T・M

イギリスの2006年の温室効果ガス排出量（うち85%がCO₂）が、京都議定書の基準年である1990年に比べて16・4%減少していることがわかった。同国の目標は12・5%減なので、まさに余裕の成果である。

また、2006年のイギリスは2・9%の経済成長を達成しているが、温室効果ガスの排出量は2005年と比べても0・5%減少。米国では、温暖化対策は経済に悪い影響を与えるという考え方が根強いが、その考えさえも断ち切れることを実証した。

素晴らしい。対して日本の2006年の排出量は、2000年比6・4%増。ちなみに目標は6%減である。京都議定書の議長国がこれでいいのだから、技術だけではだめなわけだ。結局、温暖化対策は、一人一人の削減努力しかないのである。

日本は、温暖化対策技術の開発では世界をリードしているが、そのせいか、技術でなんとかできると思っている人が多いと思う。しかしその日本で排出量が増えているのだから、技術だけではだめなわけだ。結局、温暖化対策は、一人一人の削減努力しかないのである。

たしかに浜松の街中を散策していると、20年前に比べ車の排気ガスの影響は少なく、空気がきれいになった気がする。これに、運転者一人一人の地球にやさしい運転操作が加われば、空気のキレイ度は倍増するだろう。

最近の建設現場では利益が出ず、安全費の経費を削る風潮になってきていると思います。しかし、事故を起こしてからではより一層の経費がかかります。

今後、官民共同で安全対策の充実を働きかけていきたいと思えます。

天竜地区は急峻な現場が多く、又高齢者の就業が高い為、墜落・転落の事故が多い。今後、昇降路及び足場の充実を図るよう指導していきますので、宜しくお願いします。

今年1年皆様が事故を起こさないようお祈りします。



最近のキーワード

売掛債権の買い取り。国土交通省が従来の下請けセーフティネット債務保証事業に新たに加えたもの。

ファクタリング

一括ファクタリング方式は、下請け代金や資材の納入代金などの売掛債権を取引先が「ファクタリング会社」に譲渡し、ファクタリング会社が取引先の指定する銀行口座に買取債権代金を振り込むので、決済期日を待たず元請けの信用力に基づく低利な割引レートで債権を早期に現金化することも可能で、取引先の資金繰りを円滑化する。また元請けは発注者からの支払いを受けて、下請け代金などをファクタリング会社に支払う形で決済する。

同方式の採用は、大手ゼネコンを中心に広がっているが、各地の地場ゼネコンでは、まだほとんど普及していないのが現状。

建設ギャラリー

工 事 名 称 平成18年度[第18-S0501-01号]
 天竜川支川河内沢川(龍山)災害関連緊急砂防工事(本堤工・流木止工)
 工 期 平成18年11月10日～平成20年3月21日
 発 注 者 静岡県浜松土木事務所
 施 工 業 者 乗松建設(株)
 工 事 箇 所 浜松市天竜区龍山町瀬尻地先

本工事現場は、平成18年の大雨により崩壊の恐れが生じた河内沢川に、災害関連緊急砂防工事として本堤工、流木止工を実施しました。

現場が急峻で足場が良くないので、常に作業の安全確保に留意して着工から1年4月で完成しました。

西部農林発注工事と
 並行作業でしたが
 お互い事故がなくて
 よかったです。

工事途中で何回か
 法面が崩壊して苦勞
 しました。



工事概要

・本堤工	H=12.0m	L=80.0m	V=5,033.0m ³	
・流木止工	H=3.83m	L=49.6m	V=1,129.0m ³	△型流木止8連
・第1前庭保護工	側壁工V=409.0m ³	水叩工V=566.0m ³		
・第2前庭保護工	側壁工V=343.0m ³	水叩工V=742.0m ³		

《スーパーバイザーから一言》

中根 功(本堤工担当)

現地調査で現場に初めて足を踏み入れた時に図面と現場風景を見て、「こんなデカイ工事できるかなあ」と少し尻込みした事を覚えています。工事が無事故で完成できた事がなによりで、この達成感がこの仕事の醍醐味ですね。

齋藤 浩(流木止工担当)

堰堤工、残存型樁、流木止工など初めて経験することが多く、また法面の崩壊もあった為、工期限内に完成できるのかとても不安でしたが、無事工期限内に無事故で完成することが出来ました。この経験を今後の仕事に生かしていきたいと思います。

お宝発見

シリーズ第4回

書「浦川学校」

～偉人をつなぐ 郷土の宝～

佐久間町の浦川小学校の校長室に榎本武揚直筆の書「浦川学校」が飾られています。

榎本武揚とは明治維新の時代に活躍した政治家です。

1836年幕府の家臣の子として江戸に生まれ、青年期に長崎の海軍伝習所に学び、オランダに留学します。

1866年に帰国し、海軍奉行、海軍副総裁となり幕末の幕府海軍の中心人物になりました。

1868年戊辰戦争が起り、討幕軍が江戸に入ると、軍艦の引渡しを拒み、全艦隊を率いて

北海道へ向け脱出します。北海道共和国独立を目指して函館五稜郭へ立てこもりますが、翌年の5月、降伏しました。

3年間牢に入れられていましたが、許されて、政府の役人になり、1875年(明治7年)には特命全権公使としてロシアへ行き、樺太、千島交換条約を結びました。その後、文部大臣や外務大臣などをつとめ、日本のために尽くしました。

さて、このような明治の著名な政治家の書がなぜ浦川小学校にあるのでしょうか。

そのいきさつは、次の通りです。浦川の地に学校が創設されて以来、年とともに学校が発展し、充実してきた様子を見た矢高濤一は、その当時東京に住んでいた金原明善に、浦川学校の書を時の文部大臣榎本武揚に書いてもらおうよう依頼し、明善のたまき夫人からその書が送り届けられました。矢高濤一はこの書を浦川

の代表者である矢沢源七に預り証を添えて与えました。書はきれいに表装され校長室に掲げられ、それ以来、長年にわたって浦川小学校の校長室に掲げられているのです。

矢高濤一は、浦川地区の治水に努めた郷土の偉人であり、金原明善は天竜川の治水に努めたこれも地元の偉人です。こういった人々のつながりの象徴として「浦川学校」があるのです。

昭和49年に浦川小学校の100周年記念行事が催されました。その一環として「浦川学校」を石碑として刻み、これも校庭に飾られています。

郷土の宝として「浦川学校」は、永く飾られ、語り継がれていくものと思います。



浦川小学校100周年で建立された石碑



天竜建設業協会

清水 彩加さん

気にも慣れてきましたので、会員の皆様にとって利用しやすい協会であるよう心がけていきたいです。

また、高校以来久しぶりに天竜に帰って来ることができましたので、あちこち散策したいと考えております。先月には協会の近くにある田代家や鳥羽山公園の桜を楽しむことができました。

これからは建設業や協会の仕事など積極的に学んで行きたいと思っております。よろしくお願いたします。

私は今年の二月から天竜建設業協会で働かせて頂いております。

初めの一ヶ月は聞く言葉も書類も初めてのものばかりで、職場の方々や会員の皆様に御迷惑ばかりかけていました。

最近では少しずつ協会の雰囲気